



## 第1回「交通ビジネス塾」

～交通分野における平成の松下村塾を目指します～



初回の講師は、国鉄OBの齋藤雅男氏（国連開発計画 鉄道工学専門家、ご子息が元JR東日本常務、現東京モノレール(株)社長）にお願いしました。現在88歳というご高齢でありながら、台湾新幹線建設や各地のLRT（次世代型路面電車）運動に携わられるなど、日本に限らず世界の鉄道のために日夜奔走されています。

齋藤さんは国鉄時代、東海道本線をはじめとした在来線の近代化や新車開発の実務の中心にいらっしや、また東海道新幹線の計画や開業後のトラブル解決に関わり、その後の新幹線の発展の礎を築き上げられました。

今となつては意外なようにも思えますが、新幹線の建設に対しては反対の声も根強くありました。アメリカで自動車社会を目の当たりにした識者は「これからは自動車の時代だ」と主張しました。確かに、当時のアメリカ社会は自動車社会になり、鉄道旅客輸送は後退の一路にありました。また、とある新聞は、「東海道新幹線は、『戦艦大和』『万里の長城』と並ぶ世界の三大馬鹿だ」ときき下ろしたそうです。

「現代は不確かな時代だ」と言われて久しくなりましたが、東海道新幹線も世界に手本とすべきものがない中での大事業でした。しかし、齋藤さんは先見の明と強い信念を持ち、東海道新幹線を成功へと導かれました。

地方を中心に公共交通網の衰退が進む今日、これから鉄道はどんな役割を果たしうのでしょうか。また、地方の過疎化や過度の自動車依存社会をどのように変えていけるのでしょうか。そのためにも、先を見る目をどのように養えば良いのでしょうか。

今回は、ご自身の経験談を交えながら、明治から現在までの鉄道の歴史と交通政策についてお話して頂き、今後の鉄道サービスのあり方を考えていきます。

ぜひ、齋藤さんの著書『新幹線安全神話はこうしてつくられた』（日刊工業新聞社）をお読みになってご参加下さい。

<http://www.amazon.co.jp/gp/product/4526057282>

### ■テーマ

交通政策における鉄道の役割について ～国家、地域、都市の視点から～

### ■講師

齋藤 雅男（さいとう まさお）氏

国際連合開発計画 エグゼクティブ・アドバイザー（鉄道工学専門）。

1919年、福岡市生まれ。1944年早稲田大学工学部卒、1946年運輸省。国鉄にて運転、車両の現場を経験。岡山鉄道管理局運転部長、労働科学研究所初代次長等を経て1965年6月、東海道新幹線支社運転車両部長。1972年労働科学研究所長で退任。現在も台湾新幹線をはじめ、国内・海外を問わず精力的に技術指導に当たっている。

著書 『新幹線安全神話はどうしてつくられた』（日刊工業新聞社）  
『驀進』（鉄道ジャーナル社）  
『社会風土と鉄道技術』（中央書院）

■日 時

2007年3月20日（火）19時

■場 所

(株)ライトレール 会議スペース（池袋駅西口から徒歩約6分）

<http://www.LRT.co.jp/access.php>

■タイムテーブル

19:00～20:00 齋藤氏による講義

20:00～20:10 休憩（軽食を用意します）

20:10～21:00 質疑応答、フリーディスカッション

21:00～22:00 懇親会（同会場にて希望者のみ1,000円会費）

■参加対象者

交通に関わる業務に就いているまたは就くことを希望している人